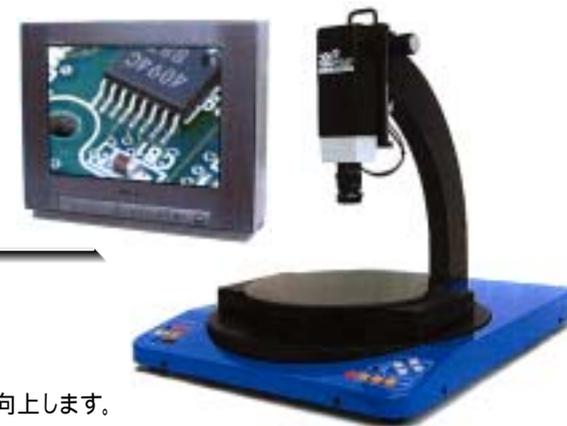


実装不良検査用スコープシステム・RV-550

鉛フリー実装基板の最終目視検査に最適
傾斜カメラと可動ステージによりハンダフィレットの詳細検査が可能



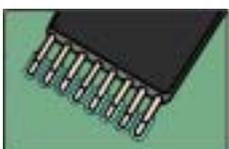
主な特徴

最大45°まで傾斜するカメラ画像により、真上からでは判別の難しいハンダフィレット部の不良(引け巣、クラック等)を目視検査できます。
高さのある部品が実装されている基板でもカメラの焦点深度が深いので、クリアな画像を表示でき、作業者の目を疲労させることなく楽に検査できます。
レンズからワークまでの距離(W・D)が大きいため、検査しながらハンダゴテ等によるリペア作業が楽にできます。
簡易ティーチングにより検査ポイントを位置入力できるため、同種の基板を複数枚検査する際、不良が出易い箇所を集中的に検査できるので検査効率が向上します。

両面実装基板の検査に対応するワーク固定方法(全機種共通)

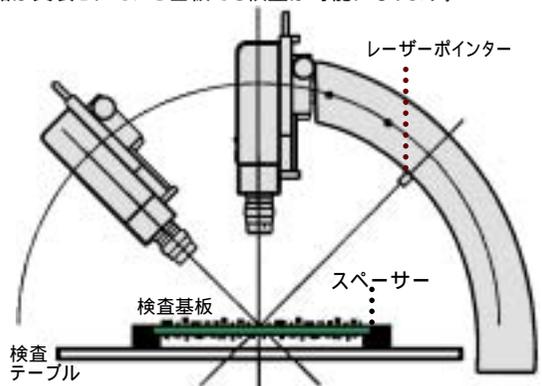
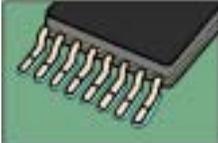
カメラ角度を変更しても視点の中心が被写体表面の1点を指すように同心円構造になっているため、常に同じポイントを画像表示します。同心円の中心はテーブルから10mmの高さに設定しており、付属の基板スペーサーで基板を浮かせて固定するため、裏面に部品が実装されている基板でも検査が可能になります。

ICリードの検査に適する斜め画像



真上からの画像だけでは、確認可能範囲が限定されて、不良の検出に必要なデータが得られない。

斜め画像によりバックフィレットの状態や、リフトオフ、リード浮き等、不良の状態も確認可能。



検査テーブルのX・Y移動	任意のポイントを検査	ボタン操作 / 登録したポイントを検査	自動
X・Y移動距離(検査範囲)	160 x 160mm		
検査テーブルの回転	手動(360°)		
カメラ傾斜	手動(45°まで15°刻み)		
検査倍率	標準	約18~30倍(14インチモニター使用時)	
	オプション	5~50倍・ズーム(14インチモニター使用時)	
解像度	41万画素(1/3CCD)		
レーザーポインタ	標準装備		
検査位置入力機能	登録数	999ポイント x 10チャンネル(トータル:9,990ポイント)	
	データPC管理	×	
外形寸法(mm)	W387・D530・H519		

鉛フリー実装検査における優位点

鉛フリー実装では判定機能付きの自動検査装置では判別できない不良が多くなる傾向にあり、目視による2次検査の方法が極めて重要になりますが、RVシステムにより不良判別の確度を向上させる事ができます。

断面図 部品リード ハンダフィレット 引け巣 リフトオフ 基板		垂直画像 引け巣、リフトオフとも判別が難しい。	
		傾斜画像 陰影により比較的楽に判別可能	

QFPコーナー画像



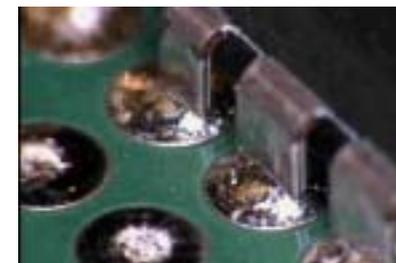
チップ部品(1005)



部品端子(BGA)



挿入部品(DIP IC)のリード部



コネクタピン拡大画像



検査テーブル回転機能

検査テーブルが±180°手動で回転します。



QFP他のICは4辺すべてのピンを検査するため、テーブルまたはカメラの回転による全方位検査が不可欠な機能となります。



有限会社 TECHNITRON SUPPLY CORPORATION
テクノトロン・サプライ

東京都品川区南大井3-31-19 エイコウ大森ビル6F
〒140-0013 TEL:03(5753)8781 FAX:03(5753)8780
http://www.technitron.co.jp